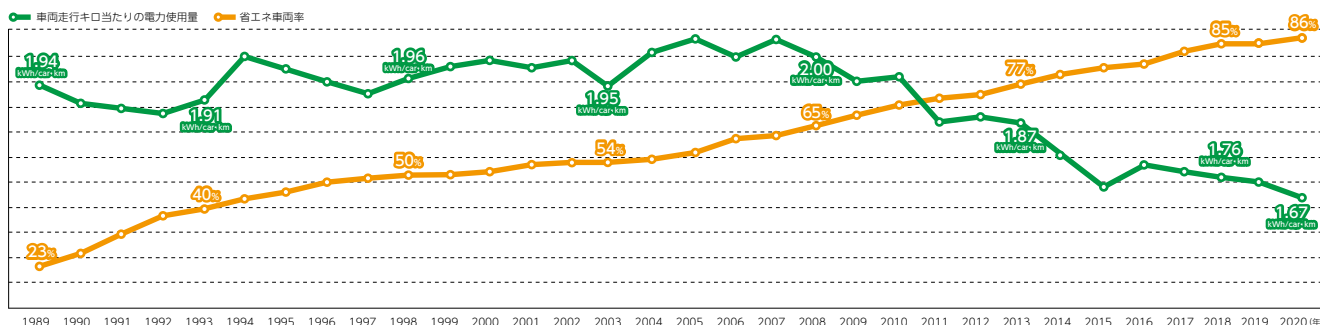


# ■ 数字で見る東武鉄道

東武鉄道の過去約30年のあゆみを、鉄道事業における主要な実績の推移と共に振り返ります。上段のグラフでは、車両走行キロ当たりの電力使用量は減少傾向にあることが示されています。さらに、省エネルギー車両の増備が進められ、2020年度の保有率は86%に達しています。

下段は東武鉄道における社会・環境の取り組みを数値に表したものです。安全、社会、環境面での取り組みが大幅に進みました。これからもより多くのお客様にご利用いただけるよう安全性、快適性に対する取り組みを展開し、環境優位性の高い交通インフラとしての責任を引き続き果たしていきます。

## 鉄道事業における実績の推移



- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>1897(明治30)年</b> 設立登記</p> <p><b>1899(明治32)年</b> 北千住～久喜間営業開始</p> <p><b>1989(平成元)年</b> 消費税導入に伴う運賃改定を実施</p> <p><b>1990(平成2)年</b> 100系「スペースシア」が就役</p> <p><b>1992(平成4)年</b> 自動改札機の本格導入を開始</p> <p><b>1993(平成5)年</b> 東武ワールドスクウェアがオープン</p> <p><b>1996(平成8)年</b> 北千住駅の混雑緩和策として東武線は1階、日比谷線は3階で発着</p> | <p><b>1997(平成9)年</b> 北千住駅改良工事が完成</p> <p><b>2001(平成13)年</b> 北千住～北越谷間(18.9km)の高架複々線化が完了</p> <p><b>2003(平成15)年</b> 「コンプライアンス基本方針」「環境理念」「環境方針」を制定。「東武鉄道 環境報告書2003」を発行</p> <p><b>2005(平成17)年</b> 南栗橋車両管理区(現南栗橋車両管区)でISO14001の認証取得</p> <p><b>2006(平成18)年</b> 伊勢崎線37号踏切道を自動化(これにより手動式踏切が全廃)</p> <p>新タワー(現東京スカイツリー®)の建設地が墨田・台東エリア(押上・業平地区)に決定</p> | <p><b>2008(平成20)年</b> TJライナーを運転開始</p> <p><b>2010(平成22)年</b> 全踏切に手動「押ボタン」設置完了</p> <p><b>2012(平成24)年</b> 東京スカイツリータウン®が開業/ 回生電力貯蔵装置を導入</p> <p><b>2014(平成26)年</b> 船橋駅でホームドアを使用開始</p> <p><b>2017(平成29)年</b> 500系「リパティ」が就役</p> <p><b>2018(平成30)年</b> 「東武線アプリ」の提供を開始</p> <p><b>2020(令和2)年</b> THライナーを運転開始</p> |
|---|---|--|

## 数字で見る東武鉄道

当社における社会・環境の取り組みや事業規模などを1989(平成元)年と比較して、そのあゆみを数字でまとめました。

### 安全

ホームドア整備駅数

0駅 → 11駅



段差の解消整備駅数

5駅 → 128駅\*



### 社会

駅チカ保育施設

0か所 → 17か所



サテライトオフィス開設数

0か所 → 4か所



### 環境

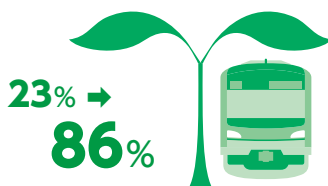
再生可能エネルギー(グリーン電力)利用によるCO<sub>2</sub>排出削減量

0t-CO<sub>2</sub> → 40t-CO<sub>2</sub>



省エネルギー車両の導入率

23% → 86%



ソーラー発電量

0kWh → 約1,000万kWh



※ 現行バリアフリー法の基本方針における対象駅: 直近3年間(2018-2020)のご利用者数3,000人/日以上、及び基本構想の生活関連施設に位置づけられた2,000人/日以上の駅を対象(全130駅)